

# 夏は「人権文化をすすめる町民運動」推進強調月間です

## 共に生きよう ふれあいのまち 講演会

- ▶日時 8月9日(日) 午後1時30分～(開場1時)
- ▶場所 中央公民館 大ホール  
※入場無料(満席の場合は入場制限があります)
- ▶演題 「互いの違い(文化)を認め合う大切さ」
- ▶講師 立原 啓裕氏(タレント)



人権とは互いを認め合うことである。お互いが今日まで育んできた“心の文化”を知り、理解し合うところからその作業は始まる。そしてその作業こそが、コミュニケーションである。

マスコミュニケーションの世界で30年間生きてきた放送タレント・立原啓裕氏の、大学教授としての専門分野でもあるコミュニケーション論を中心に、分かりやすく面白い実例も交えながら、人権の底辺を語っていきます。

▶講師プロフィール 1954年1月12日、大阪・天満生まれ、奈良育ち。大阪芸術大学卒業後、劇団四季に入団。4年半の在籍後帰阪し、放送タレントとして活躍。放送レギュラー週16本の日本記録樹立後も歩みは着実。テレビ・ラジオ・講演・舞台(演出も含む)と芸域も幅広い。

- ▶主催 播磨町、播磨町教育委員会
- ▶共催 播磨町人権・同和教育研究協議会
- ▶協力 手話通訳派遣グループてふてふ 要約筆記ひまわり

公民館ロビーでは、小・中学生の人権標語・ポスター展も同時開催します。

※1 駐車場に限りがありますので、徒歩か自転車でお越しください。

※2 託児(1歳以上)を希望される方は、8月3日(月)までに生涯学習グループ(人権担当)へお申し込みください

▶問い合わせ 生涯学習グループ ☎079(435)0565

## 共に生きよう ふれあいのまちはりま コミセンのつどいーふれあう心ひろがる輪ー

内 容	
野添コミセン	8月29日(土) 午前10時～正午 人権啓発講演会「介護予防のレクリエーションゲーム」 ▶講師 榎本 英樹氏(NPO法人生涯学習サポート兵庫)
東部コミセン	9月6日(日) 午前10時～正午 人権啓発講演会「こころをほぐすコミュニケーション」 ▶講師 栗木 剛氏(mottoひょうご)
南部コミセン	9月12日(土) 午前10時～正午 人権啓発映画 長編アニメーション映画「マヤの一生」 監督 神山 征二郎 原作 椋 鳩十
西部コミセン	9月12日(土) 午後2時～4時 人権啓発映画 長編アニメーション映画「ライヤンツー リーのうた」 監督 有原 誠治 原作 たかし よいち

こころとからだに元気をくれるお話やこころを震わせる映画で、「幸せに生きること」「人を大切にすること」について考えてみませんか。ぜひ、お誘い合わせてご参加ください。

▶参加費 無料  
4コミセンで実施します。  
どのつどいも、自由にどなたでも参加できます。

主催/播磨町教育委員会  
共催/播磨町人権・同和教育研究協議会

**平成21年度人権問題文芸作品「のじぎく文芸賞」募集**  
小説・随想(手記・作文を含む)・詩・創作童話  
兵庫県と財団法人兵庫県人権啓発協会では、人権の大切さや思いやり、支え合うことの素晴らしさなど、人権文化の創造や人権課題の解決に関する内容が描かれた文芸作品を募集しています。

▼締切 9月30日(水)  
▼応募資格 県内在住、在学、在勤の方  
▼作品の条件 インターネット上を含む未発表・未投稿(他の文芸賞などへの重複応募を含む)の自作作品に限り。また、字数制限があります。  
▼問い合わせ・申し込み 財兵庫県人権啓発協会 ☎079(242)5355



**人権啓発DVD紹介**  
「親愛なる、あなたへ」(平成20年度作品)  
「人権が尊重される安全・安心のまちづくり」を目標として、現在、都市化や核家族化が進行し、地域社会における人々の結びつきが弱まっています。近隣同士であつても互いに無関心、無理解でいることにより、様々な人権問題が起きています。  
本来、地域の主人公はそこに暮らすすべての人々であるはずですが、しかし、実際には、自分も「まちづくり」の主人公であることをすっかり忘れて、他人任せになりがちです。  
このドoramaでは、一人の人間の気つきと再生を中心に描いています。一人ひとりの『気づき』こそが、互いに支え合う力が低下した地域の『再生』につながります。無関心、無理解という冷たい壁を破って、温かい見守りと相互支援を進めることの大切さを語りかけます。(財兵庫県人権啓発協会発行 人権啓発ビデオ「親愛なる、あなたへ」のチラシより)  
▼貸し出し・問い合わせ 生涯学習グループ ☎079(435)0565

## 人権文化をすすめる

日々の生活の中で

お互いの「じんけん」を尊重することを自然に感じたり 考えたり 行動することが定着した生活の有り様そのもの

それが「人権文化」です

身長も体重も顔かたちもみんな違うけれどただ一つ「幸せに生きたい」という

願いはみんな同じです

そんな違いを認めあい

同じ命をいたわりあうことが

息をするように自然なことになる社会へ

ことさらに「じんけん」を特別なものとして考えるのではなく

いつもかかわりあって

あたりまえのことだと思えるように

ごく普通にそんな意識をもって

暮らせる社会づくりが

「人権文化をすすめる」ということなのです



兵庫県・(財)兵庫県人権啓発協会発行  
「感じることから始める心のスケッチブック」より